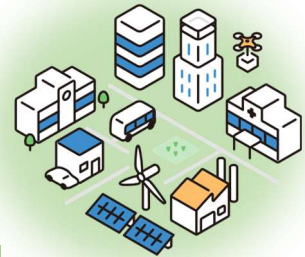




地域を支えている人を支える

～区役所障害高齢課、第2層生活支援コーディネーターとともに～

仙台市社会福祉協議会 泉区事務所
所長代理・CSW（第1層生活支援コーディネーター） 大久保 環



仙台市における第2層COと第1層COの役割

第2層生活支援コーディネーター（第2層CO）＝機能強化専任職員

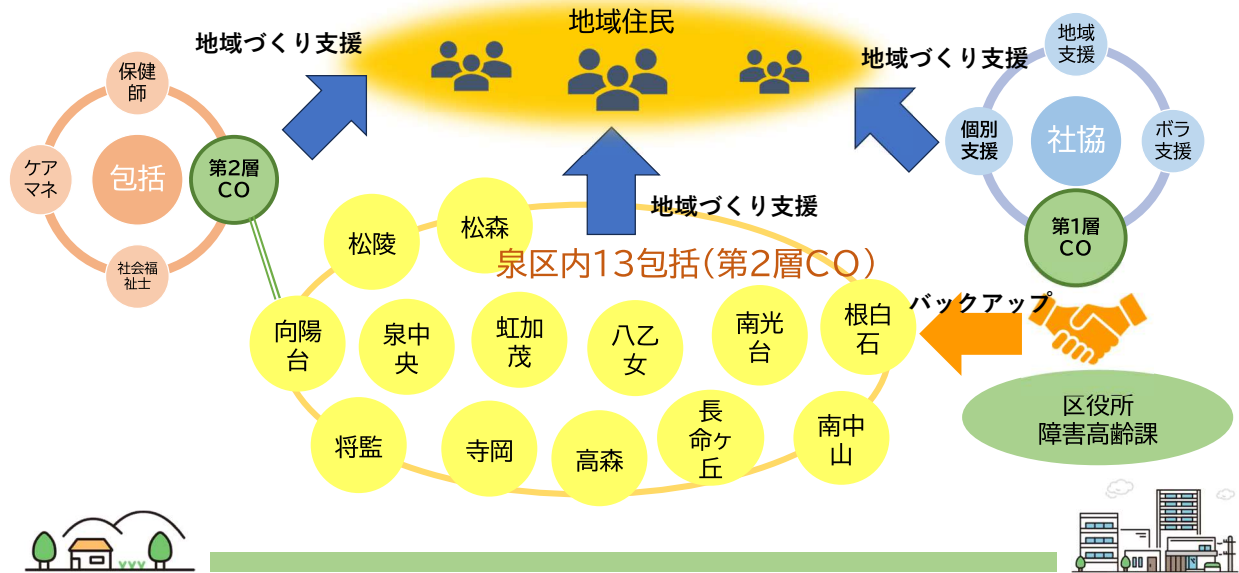
日常生活圏域（中学校区）で、高齢者が抱える困りごとを見える化し、既存のサービスや地域活動につなげたり、サービス・活動の開発を支援する機能
仙台市では、「認知症地域支援推進員」を兼ねており、認知症とその家族の支援、地域住民への啓発なども取り組む **仙台市：地域包括センターに配置**

第1層生活支援コーディネーター（第1層CO）

行政区圏域（泉区）で、第2層COを支え、コーディネートする機能
仙台市：社協区事務所に配置（地域活動支援に取り組んできたCSW）



地域づくりを支えるチーム



CSW(第1層CO)としての取り組み① ~情報共有~

機能強化専任職員定例会(毎月開催)

参画：13包括の第2層CO、障害高齢課地域支援係（保健師）
社協CSW（第1層CO、個別支援）、+α

内容：各包括の活動状況の共有、第2層COとして課題と感じていることについての学びの機会創出、協働での取り組みの実施

何を共有すべきか
何に取り組むべきか
みんなで考えよう

経験年数の差など
包括(法人)を越えて
サポートしあえる
ように

2層の悩みを
一緒に悩もう
一緒に向かおう

区域共通の課題や
取り組みが
あるだろうか？



CSW(第1層CO)としての取り組み② ～地域をともに知る～

包括圏域会議

関係機関や地域住民が連携して個別課題や地域課題を話し合う会議

三者ミーティング

包括×区役所障害高齢課×CSW(第1層CO)で行う地域課題の情報交換会

地区社協役員会や研修会等への参加

サロンやイベント参加、出前講座、活動のしくみ見直し、新規事業打合せ など

障害高齢課との打ち合わせ

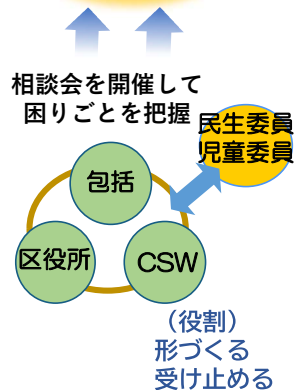
研修会や会議の開催打合せ
各地域の情報共有 など

それぞれの包括と「地域の課題を捉える」
「地域活動者の思いを知る・共有する」

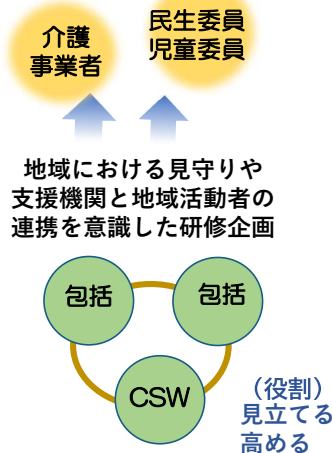


CSW(第1層CO)としての取り組み③ ～第2層圏域の支援～

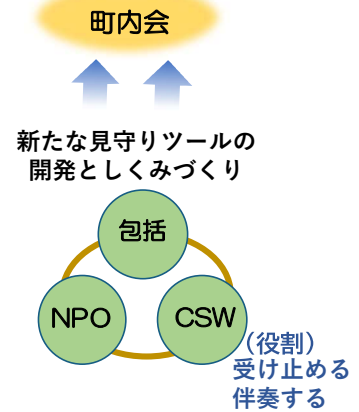
【事例1】 集合住宅



【事例2】



【事例3】 町内会



CSW(第1層CO)としての取り組み④ ～協働での住民向け啓発～

ステップ1(令和3～4年度)

地域活動者向け正しい認知症の理解に取り組む＝サポーター養成講座の実施

ステップ2(令和5年度)

金融機関窓口と連携したサポーター養成講座の実施＝企業等の他分野への拡がり

ステップ3(令和6年度)

「これまで協働で取り組んできた認知症の取り組みを更に進めたい！」

もっと広く様々な人に認知症の理解を拡げるために、区民向けに啓発イベントを実施してみよう！

昨年度までの取組を深めたい

新しい認知症観を啓発したい

新たな認知症施策どうやって進めていけばよいか？

みんなでやってみる？



CSW(第1層CO)としての取り組み⑤ ～オレンジフェア～

① コアメンバー募集(なんと！3包括手上げ)

3包括×障害高齢課1名×CSW2名 → 企画のアイデア出し

② たたき台を元に協議

各包括が取り組んできた成果を参考に

③ 役割分担で全員で準備へ

CSWは障害高齢課担当と全体調整

④ チラシ作成・広報・募集

「新しい認知症観・新たな施策に興味をもってくれるかな？」

募集はすぐいっぱい・・・

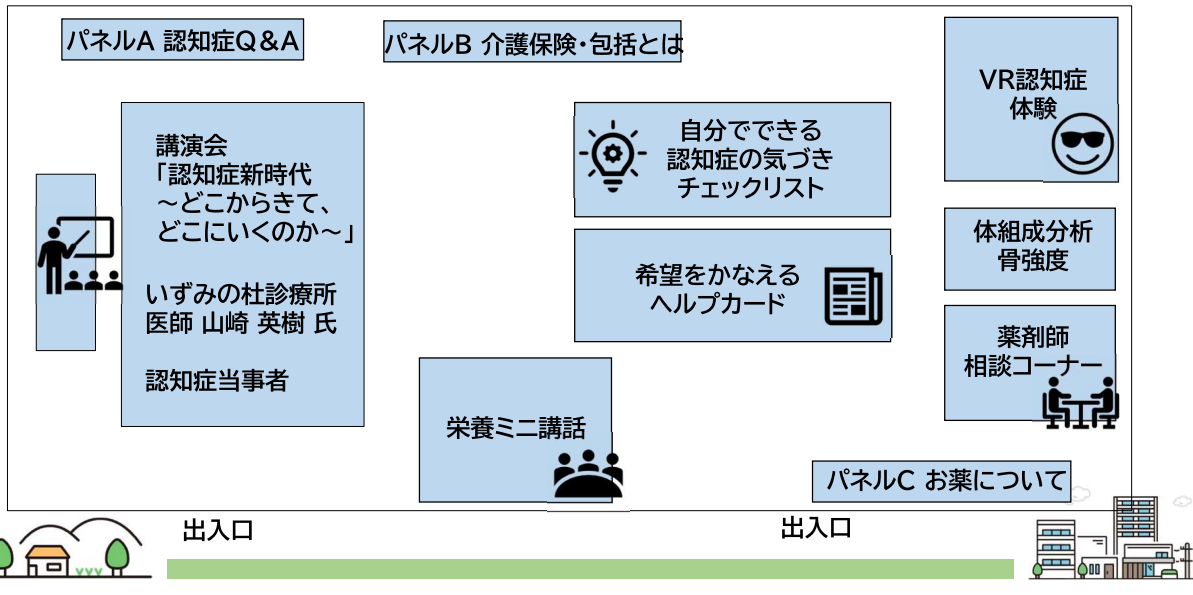
⑤ 当日運営！

オレンジフェア
 認知症新時代
 ～どこから来て、どこへ行くのか～
 講師 山崎 英樹 氏
 定員 60名 事前申込みが必要
 令和6年11月25日(月)
 13:00～開会
 泉区役所5階 大会議室
 認知症関係体験ブース 14:15～16:00
 ①VR認知症体験 定員数35名(申込あり)
 ②「希望をかかえるヘルプカード」
 を作ってみよう！
 ③体験成分析・性検査
 ④栄養士ミニ講話
 ⑤パネル展示コーナー
 参加費 無料



オレンジフェアの全体像

参加者93名(区内すべての包括圏域からの参加)



オレンジフェアの実施にあたって ～工夫・苦労～

工夫・意識したこと

- コアメンバーを第2層COより選任することで、より第2層COの意見を反映 「意識を結ぶ」
- 単体の包括のこれまでの実践を活かす
体験ブースは、包括が事業で実施したり、連携してきた企業などを参考に 「つかむ」
- 経験差により意見交換が停滞しないように、「思いついたことをどんどん言葉に」
「きっかけをつくる」
- 負担感が偏らないように分担(協力依頼先: 医師、介護業者、薬局、支援機関・・・) 「調整する」
- (CSW個人としては)新しい認知症観についてとにかく学びを深めた

難しかったこと

- それぞれに通常業務がある中での時間調整
作成物などは、グループで集まって実施したり・・・
- 18人が平たく協議し組織の上下関係がない「意思決定」
⇒ 時間はかかる(が、よく考えた、よりよい選択へ)



協働の取り組みを通して ～変化・成果・深まった視点～

参加者にとって

「認知症予防よりも共生に重点を置いた講師の話が、とても温かく今まで参加した会にない学びがあった」
「以前より認知症について探求していたので、少々驚いた！」
「知らなかったことばかりで、目から鱗」
「VR体験、貴重な体験。向き合い方が変わると思った」
「ブースの各種体験とても良かった」

◎認知症について理解を深めることができましたか？ ⇒ 3/4以上

第2層COやチームにとって

13包括で連携して1つの事業実施を通して…

◎経験年数の差、新たな認知症施策に関連する事業の実施差を埋められた、学びあえた
手ごたえ・自信 ⇒ 各包括での展開へ

◎1年間で8人の第2層COが異動。
包括・役所・社協という立ち位置を越えた、協働作業 ⇒ 日常業務の連携強化へ
⇒ 区域の共通課題を意識



これからの展開 ～地域を支えるチームと考える～

- 地域活動が活発な地域ほど、支援が難しい世帯に気づく
地域活動だけではサポートできないその世帯の支援をどこにもつなげない、相談できない、と活動者は不安になる、活動にも変化
- 地域活動者やこれから関わる方々が、
「安心して活動できるように、気づけるように」
地域活動をサポートするチームでありたい
…何でも「総合相談」に対応できることで、のびのびと活動できる地域を
- CSW（第1層CO）として、地域のニーズを敏感に感じ取っている
第2層COとともに、一緒に悩み、考え、地域活動者の「思い」に伴走する

高齢者虐待

地域全体での見守り

相談につながりにくい世帯

人生会議

成年後見

